心の花歌語事典

⑨ 行事

奥村知世選

日本には豊かな四季とそれにまつわる折々の行事がある。
伝統的な行事の歌から現代的な行事の歌まで、一年を彩る。

■一月

【正月】

とほつ人たよりはあらず正月もなかばになればものはかなかり　九条武子『金鈴』1922年

ほととぎす去年(こぞ)か今年か房美(はみ)しき藤(ふじ)の盛(もり)飲む雪の正月　佐佐木幸綱『滝の時間』1993年

【初日の出】

初日の出われも目守(まも)れどしみじみと吾が古妻は拝み居(を)るなり　川田順『旅雁』1935年

【賀状】

宛名のもの既に戦死せりとわが賀状封じこめたる軍事郵便きぬ　斎藤瀏『悪童記』1940年

【元旦】

妻十時間我十二時間元旦の今年もまたテレビをみてしまう　久松洋一『ビジネス・ダイアリー』1994年

【成人の日】

野良猫のオナカシロコの背中にも元(もと)成人の日の風がふく　藤島秀憲『オナカシロコ』2020年

【受験】

娘の晴着の袂より出でしはキャラメルなり受験の学期はじまらむとす　五島美代子『新輯母の歌集』1953年

■二月

【節分】